

我が社の最も美しい姿

理念



「理念（経営理念）」が、我が社の「在り方」「存在意義」「目的」で有り、我が社「傍楽仲間達」皆の「使命」を表した心臓で有り、「永遠に追い求め続ける理想の姿」で有ることは経営計画書に記載の通り。

これにて、此度の「書」に添える言葉「理念」を終えても構わぬのだが、それでは、此之「書」に添える言葉にて知識を得るも愉しむ傍楽仲間達諸賢は、許すまい、ゆえに今少し、「理念」のはなしをしよう。

理念の「理」とは、最古の漢字辞典で有る「説文解字」に依れば、「玉を治むるなり」と有る。では、「玉」とは、何か？「玉」とは、「石の美しく五徳有る者なり（五徳＝仁・義・智・勇・礼）」と、有る。即ち、理念の「理」とは五徳で有る仁・義・智・勇・礼を治めることと有ると云えよう。

さすれば、聊か飛躍が有ろうが、社長が、正に此処「書」に添える言葉にて傍楽仲間達に順次伝えてきた「仁・信・義・勇・礼」を信じて礼に読み換えるはこれも聊か意識で有るが）を傍楽仲間達が体現することは、理念の追求其之ものと云うても佳からう。

尚、「智」は、「知慧」にて述べた通り、「仁・信・義・勇・礼」無くして得よう、或いは発揮しようとするは必ずや「策士策に溺れる」、小知、小賢しさに陥らぬよう「仁・信・義・勇・礼」の体現をゆめゆめ怠らぬよう。

続いて「念」とは、読んで字の如く「今の心」で佳い。では「今」とは何か？

「今」は、「今さえよければいい」なぞと云うような利那的な偷楽を例えるような言葉では無く、来し方行く末、即ち過去と未来を繋ぐ唯一の結節点にして、唯一己が己の力で変えられるもの。或いは、「Yesterday is a history, tomorrow is a mystery, but today is a gift. That is why it is called the present」、即ち「今」とは、謙虚と感謝で受け取る天与のものとも云えよう。而して、「念」とは、今を全身全霊生きる己が授かりた総てと総ての人々、物事への謙虚と感謝の表れで有ると云えよう。

此処に、「理念」とは、「仁・信・義・勇・礼」を己の「今」で体現し続けると云う社長の哲学が言語化され、私達傍楽仲間達みんなの目的、使命へと昇華してゆくのだ。

今一つ、社長は常日頃「経営」理念とは「社長の盟い」だとも云うて居るはず、即ち「経営」理念とは、社長小野有「理」の「念」及び執「念」で有り、同時に、「社長が世の為人の為に想う最も美しい会社の姿」だと、高らかに謳い上げてみせようぞ。

代表取締役社長CEO兼グループCEO

小野有理